
素麺食ったら麦茶味（意味なし

8色16ビット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素麺食ったら麦茶味（意味なし）

【Nコード】

N8502A

【作者名】

8色16ビット

【あらすじ】

枯葉の舞う公園で彼は時間をつぶしていた……シヨボイス
ケールで送るへたれラブ（？）ストーリー

枯葉が風に巻き上げられカサカサと飛んでいくのを眺めながらベンチに腰を掛けていた

今日は中学時代の同窓会があり、今俺は開始までの時間を潰していた。

「はあ・・・」

軽く溜息をついてみるとちょっとは雰囲気もでるかと思ったがなんてことない、

虚しいだけだ。

今は午前九時四分前。同窓会は午前十一時からだから結構時間もある。

なぜ俺がこんなに早く来ているかというと・・・まあ緊張しいたんだな、遠足前日の子供みたいなものさ。

そう今現在俺の心拍数は新記録を打ち上げるべく絶賛鼓動中であり、その理由としては

中学時代の甘酸っぱい思い出の賜物である・・・まあ、思い出してみるのも良いだろう。

かくして俺は遠い記憶の旅に残りのじか金を費やすことにした。

あれはそう、中二の時だったか・・・？

クソ暑かった。もう何もするにも暑いの一言が出るような、つまり猛暑だったわけである。

当時スポコン時代のキツイ部活から逃げるべく俺は美術部に入部していたわけだが

窓全開の美術室ですらこんなに暑いのだから外の運動部は今頃日干しかステーキだろうと

考えていたのを覚えている。ああ、素晴らしきかな文芸活動・・・

そんなこんなで夏休みもちよく学校に通っていた俺は出会ったのだった。

あの少女に。

出会いはどんなだか良く覚えていない。なんだか痛かったような気がするから

廊下でぶつかったとかそんな感じだろう。とにかくなんだかんだでその子と親しくなり

結構な時間一緒にすごした記憶がある。よく覚えてはいないが・・・

そう、あの時だ、その子を好きになったのは。校舎の裏に古い倉庫があった。物置というかガラクタ入れになっ

ているような所にその子が閉じ込められたことがあった。その時偶然現場に居合わせたのが俺であり。

当然俺はその子を助けるべく全力を尽くした。扉をふさいでいたのはかなり重い廃材で

美術部である俺が持ち上げられる重さではなかったのだがその時はなぜか持ち上げられたのだ。

かくして開いた扉から出てきたのはとても弱気な表情で俺にすぐりよって泣く姿に

もうなんというか一気に惚れてしまったのだ、若かった。がしかし、俺が親しい女の子に激的な恋愛感情を抱いた矢先。その

子は転校してしまい、結局思いを伝えることが出来なかった・・・のだ。

なんというか寒い。それは冬が近いからとかそう言うのではなく自分の回想が寒かった。

年ってこわいな・・・

つと、ヤバイ、なんだかんだ言っそろそろ時間が迫っていた。

あの子も来るのだろうかと思うと少し胸が躍る。さて、会場はどこだったか、

案内の紙をもう一度確認し俺はベンチを後にした……

灰皿が飛んできた、顔面に。

アルミ製じゃなけりやどうするんだと突っ込む前に俺はフリーズしていた。

あの子が居た。記憶の中少女はすっかり大人の女性になっていたが各所に残る面影

があの子であることを確信させる。だが確信してしまい、顔面に飛翔してくる物体を見て

思い出してしまったのだ。全てを……

そう、暑かった。いつもの数倍。それは今週が植物の写生であり、俺が屋外にいるからだ。

ちようどテニス部のコート近くに木陰があったのでそこで写生することにしたのだが、

開始して三十分。この時だ。俺の顔にラケットが飛翔してきたのはラケットが飛んできたのは女子テニスのコートからで、ラケットを投げたのはあの子だった。

そう、これが出会いだっただ、痛い記憶の真相である。

んでその子と接点を持ってしまった俺は事あるごとにパシられ、ついでにトレーニングに

無理ありつき合わされたおかげで結構筋力がついていたのだ。

これで扉の真相もわかった。

そう、思い出してしまった。その子とすごした時間がTHE・地獄だったことを。

思い出してしまった、凶暴なあの子に良く殴られたことを。

そして今わかった。今の彼女も性格がそのまま、むしろパワーアップしてないか？

俺はこれから始まるおそらく地獄に心底溜息をついた。

人間の自意識ってこわっ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8502a/>

素麺食ったら麦茶味（意味なし）

2010年10月28日07時34分発行